

第98回 定時株主総会 質疑応答

(回答者)

代表取締役 社長執行役員 櫻井昭彦

取締役 常務執行役員 関係会社戦略本部長 川名康正

取締役 上席執行役員 経営企画本部長 後藤基

<質問1>

大株主である光通信との関係を教えてほしい。

<回答1>

(後藤)

光通信様と当社との間に取引等の特別な関係はございません。光通信様は持株数第三位の大株主でいらっしゃいますので、定期的な面談等を通じて、色々と意見交換をさせていただいております。

その結果、光通信様は当社の収益維持分野であるエネルギー分野等に関する当社の方針や経営戦略・成長戦略をご理解頂き長期的に保有する方針であると同っております。

<質問2>

子会社セイカダイヤエンジンおよび名南共同エネルギーの売上利益状況、および今期の予想を教えてほしい。

また、名南共同エネルギーは石炭火力発電事業を行っているが、脱炭素に向けた厳しい事業環境の中、どのような温暖化ガス排出削減の対応がなされているのか。

<回答2>

(川名)

セイカダイヤエンジンにつきましては、昨年10月から当社グループに加わりました。

同社は12月決算のため、当期の連結決算への寄与は3か月間でしたが、当該期間において当初計画した当期純利益を達成しております。

また、現進行期においては、当初計画した利益の150%程度を予想しておりますので、期待した効果を生んでいると考えております。

名南共同エネルギーにつきましては、同社は建設時からの設備トラブルが続いており、業績に影響が出ております。

特に現進行期においては6月に大型定期検査を行い、建設時からのトラブルの抜本的な対応を行っていることから、現進行期は1億5千万円を超える赤字を見込んでおります。

しかしながら、今回の修繕で設備トラブル概ね解消することから、今後は業績向上すると

予想しております。

また、名南共同エネルギーの石炭火力発電所は総合熱効率が約 60%であり、国が推し進めている低効率石炭火力の休廃止の設備にはあたらないことから、当面のところ懸念はないと考えております。

今後につきましては、CO2 排出削減に向けた改造、改善などを検討しております。

<質問 3>

現進行期の業績予想において、上期と下期で大幅な収益率の差が生じていることについて説明してほしい。

<回答 3>

(櫻井)

当社単体の売上については過去から下期偏重の傾向にありますが、特に現進行期においては下期に大型輸出案件の受渡が集中いたします。

輸出案件につきましては高採算で比較的利益率が高いことから、上期に比べ下期の収益率が高くなるものと予想しております。

<質問 4>

Re-SEIKA2023 年 3 月期の最終年度の経営数値目標に対して、東洋経済の会社四季報ではこれより低い数字が業績予想として掲載されているが、そのことについての見解を聞きたい。

<回答 4>

(後藤)

東洋経済様が算出された予想数値の根拠は当社として承知しておりませんが、同社とは四半期に一度面談をしており、その時の情報等を基に同社独自のご判断にて予想数値を算出されたものと考えております。

同社の予想数値は営業利益 32 億円、純利益 21.5 億円となっておりますが、当社は Re-SEIKA2023 最終年度の数値目標である営業利益 37 億円と純利益 25 億円に向かって全社一丸となって取り組んでおります。

<質問 5>

来年 4 月からの東証の上場基準変更について、プライム上場市場についてどのような対応をされているのか聞きたい。

また、東洋経済に同業他社が当社株式を買い増したと記載があるが、そのことについてどう考えているか教えてほしい。

<回答 5>

(櫻井)

東京証券取引所から発信されている情報を基に、当社の流通株式時価総額等を分析したところ、現状では最上位のプライム市場の基準や T O P I X への採用銘柄の基準をクリアして

おります。

現在選択する市場を正式には決定しておりませんが、今後、経営会議や取締役会において議論し、決定していくことになります。

新市場区分への申請スケジュールは、今月 6 月 30 日を移行基準日として一次判定がなされます。7 月 9 日に東証から適合の可否通知が来る予定とのことであり、その結果をもって 9 月～12 月の間に申請、その後 1 月 11 日に市場区分の発表予定と確認しております。

プライム市場へ上場した場合には、高いコーポレートガバナンスの水準を備えていること、企業価値をしっかりとコミットメントすること、明確な長期成長戦略を開示することなどが求められることも踏まえ、丁寧に議論していきたいと考えております。

1961 年に東証一部に上場し、株主様をはじめ、あらゆる取引先様等の信頼を得ながらこれまで発展してまいりました。これらを踏まえて、個人的には最上位のプライム市場への移行を目指したいと考えております。

同業他社が当社の株を買増したのではないかというご質問につきましては、我々は情報を得ておらず、そのような事実については確認しておりません。

なお、会社四季報 2021 年 2 集において、当社第三位の大株主の光通信様が同業他社の株式を買増しているという記載を確認しております。

以 上